

データ解析の基礎 ーデータの分類とまとめ方ー

高木 廣文
東邦大学看護学部
国際保健看護学研究室

e-mail: halwin@med.toho-u.ac.jp
http://homepage2.nifty.com/halwin/takagi.html

統計学と統計について

- 統計学 statistics とは何か？
 - ・ 統計： 統計をとる（？）
 - ・ 統計学： 統計学を使う（？）

2

「統計をとる」とは？

- ・ アンケート調査で学生のアルバイト実施を調べる。
- ・ ある病院の診療科別外来患者数を調べる。

⇒ データを収集する（データをとる）。
集計をする。人数を数える。等々。

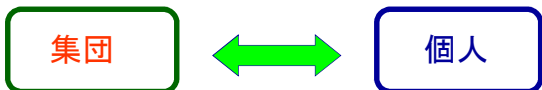
3

統計学とは？

- ・ 数理統計学
- ・ 生物統計学
- ・ 経済統計学
- ・ 看護統計学
- ・
- データに内在する傾向を明らかにするための科学的 method を与える

4

統計学の対象は何か？



集団がもつ各項目や特性などの傾向についてデータから検討するための方法を提供

5

統計学の立場

- 統計学の特徴
 - ・ 現象の数量化（データ化）
 - ・ 各種検査値
 - ・ 臨床的な症状や患者の性格特性
 - ・ QOLなど
 - ・ 「質」を「量」として把握
 - ・ 客観性を高める。
「再現性」, 「比較可能性」
- 科学的な研究に不可欠

6

統計学的なものの捉え方

現象を統計学ではどのように把握するか？

- (1) 具体性, 現実性
現実的な具体的な現象のみを扱う。
- (2) 操作性
具体的に扱うために数字で表現する。
- (3) 変動性
対象を常に変動するものとする。
- (4) 傾向性
変動性の中に傾向性が存在する。

7

統計学を使う目的

統計学を目的により大きく2つに分けて考えることがある。

- (1) 特定の事象の「記述」
「記述統計学」 descriptive statistics
- (2) 調査結果や研究結果の「一般化」
「推測統計学」 inferential statistics
検定, 推定

8

記述統計学の方法

データをまとめて, ある特性を示す。

- 図や表を用いて示す方法
- ひとつの数値で示す方法

9

● データを図示する手法

「円グラフ」, 「帯グラフ」, 「棒グラフ」,
「ヒストグラム」, 「折れ線グラフ」,
「幹葉表示 stem-and leaf display」,
「箱ヒゲ図 box and whisker plot」,
「相関図(散布図)」など

10

● データを要約するための指標

「代表値」— 平均値, 中央値, 最頻値
「散布度」— 分散, 標準偏差, 変動係数
「相関係数」, 「割合」, 「クロス表」 など

11

推測統計学の方法

データから得た結果を一般化, 普遍化する。

- 推定 estimation
データ (標本) から一般集団 (母集団) の特性を求める:
⇒ 母平均値, 母比率の信頼区間など
- 検定 test
データから一般集団の特性に関する仮説を検証 ⇒ 独立性の検定, 無相関の検定など

12

データ解析について

- ◆従来の多くの研究:
統計的検定の多用— **確証的解析**
confirmative analysis
- 記述的方法を多用, データに依存した解析:
探索的データ解析 exploratory data analysis

幅広い知識や教養, また洞察力・直観力も極めて重要。方法の選択や結果の解釈を正しく行うには, 統計学に関する正確な知識も必要

データとは何か

- 例 1. A子さんの身長は160cmです。
- ・ A子さんの身長の測定結果。
 - ・ A子さんの身長の「**データ**data」。

- 例 2. 学校で行われる身体計測
- ・ あるクラス30人の身長の一覧表。
 - ・ そのクラスの「**身長**の**データ**」。

ラベリングについて

- 例 3. A子さんの血液型はA型です。
- ・ 血液型のデータを示している点は, 身長の場合と全く同じである。
 - ・ 血液型は, ある特定の反応の有無により A, B, O, AB の4タイプに分類
- ⇒ **標識付け**
(ラベリング labeling, ラベル付け)

データの定義

個体のある特性について測定を行い, 適当なラベルを付けたもの。
もしくは, その全体, およびそれらをまとめたもの

データの分類

- 1) 身長や体重のデータ
- ・ ある「物差し」を用いて測定: 数値で表現
 - ・ データを足したり引いたりできる。
- ⇒ **量的データ** quantitative data
- 2) 血液型のデータ
- ・ ある特性に名称をつけたもの。
 - ・ それぞれを足したりすることは不可能。
- ⇒ **質的データ** qualitative data

量的データの分類

- 例 1. A子さんの体重は50Kg,
K子さんの体重は60Kgです。
- (1) K子さんはA子さんより10Kg体重が重い。
- ・ データの「**差**」の計算ができる。
- (2) K子さんはA子さんの1.2倍の体重がある。
- ・ データの「**比**」の計算ができる。
- ⇒ 「**比尺度** ratio scale」によるデータ

間隔尺度

例2. 一日の最高気温20°C, 最低気温10°C。

(1) 一日の気温の差は10°Cである。

⇒ 差の計算可能である。

(2) 最高気温は最低気温の2倍である？

⇒ × 比の計算不可。

「間隔尺度 interval scale」によるデータ

原点0のもつ意味による相違：

- ・ 負のデータの存在。
- ・ 比尺度に負のデータはない！

19

質的データの分類

例1. 血液型のデータの場合：

A子さんはA型, K子さんはAB型。

・ 差の計算： $A-AB=A(1-B)$ ？

・ 比の計算： $AB/A=B$ ？

- ・ A型とB型の差や比を取ることは不可能。
どちらが大きいともいえない。

⇒ 「名義尺度 nominal scale」によるデータ

20

順序尺度

例2. あなたは寝起きはよいですか」の
ような質問項目への回答

1. 非常によい 2. よい 3. 悪い 4. 非常に悪い

- ・ 各カテゴリについての数値1~4の差や比は計算できない。
- ・ 数値が大きくなるにつれ、寝起きが悪くなるという、順序がある。

⇒ 「順序尺度 ordinal scale」によるデータ

21

データの分類再考

● データの測定尺度によるまとめ

(1) 量的データ：

(A) 比尺度によるデータ

(B) 間隔尺度によるデータ

(2) 質的データ：

(C) 順序尺度によるデータ

(D) 名義尺度によるデータ

変更可能

22

データの「質」と基本的統計手法

(1) 量的データ：

平均値, 分散, 標準偏差, 相関係数, など

(2) 質的データ：

人数, 割合, クロス表など

● 求められる基本統計量が異なる！

23

データのまとめ方

● 質的データの場合：

単純集計と度数分布表の作成

(1) カテゴリごとに人数を数える

(2) 人数から割合(%)などを求める

(3) 表や図にまとめる



度数分布表 frequency table

棒グラフ, 円グラフ, 帯グラフなど

24

度数分布表 frequency table

(例) ABO式血液型のデータ

血液型	度数	相対度数
A	17	42.5
B	8	20.0
O	12	30.0
AB	3	7.5
計	40	100.0

25

●用語について

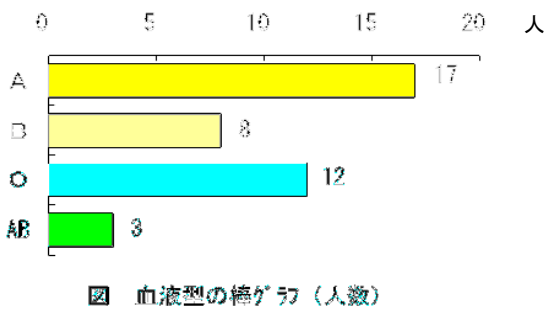
度数：人数，個数，頭数，枚数など
frequency

割合：proportion

←→昔は「比率」と誤って呼ばれていた。
今でも，その名残がある。

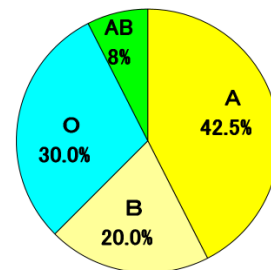
26

棒グラフ bar-graph



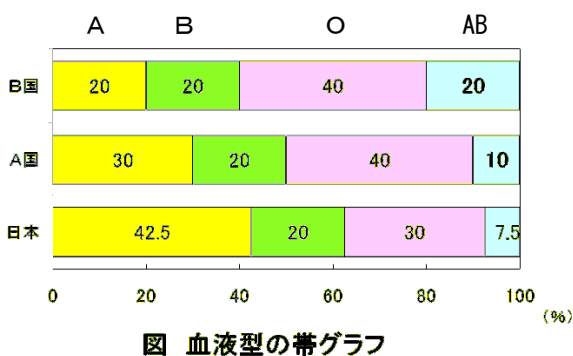
27

円グラフ pie-graph



28

帯グラフ rectangular graph



量的データのまとめ方

・データの分布を調べる。
度数分布表の作成。

(例) 体重のデータ:

どのように人数を数えればよいのか?

→ 5Kg ごとに幅を決めて人数を数える。

区間, 階級 class の設定。

30

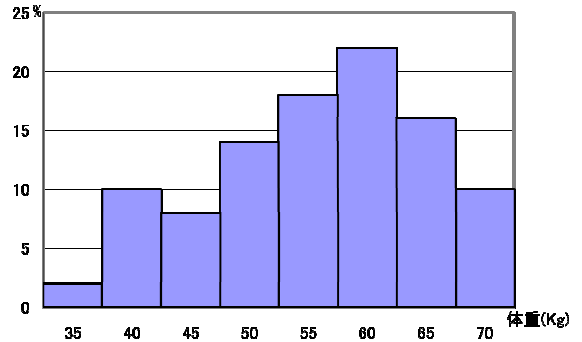
量的データの度数分布

表. 体重の度数分布表

区間(Kg)	度数 (%)	累積度数 (%)
35 ~ 40	1 (2.0)	1 (2.0)
40 ~ 45	5 (10.0)	6 (12.0)
45 ~ 50	4 (8.0)	10 (20.0)
50 ~ 55	7 (14.0)	17 (34.0)
55 ~ 60	9 (18.0)	26 (52.0)
60 ~ 65	11 (22.0)	37 (74.0)
65 ~ 70	8 (16.0)	45 (90.0)
70 ~ 75	5 (10.0)	50 (100.0)
計	50(100.0)	

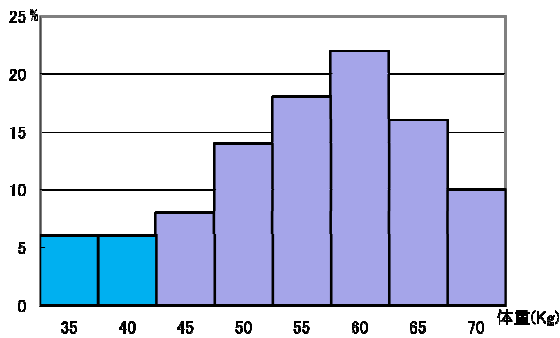
31

ヒストグラム histogram



32

ヒストグラム histogram 2



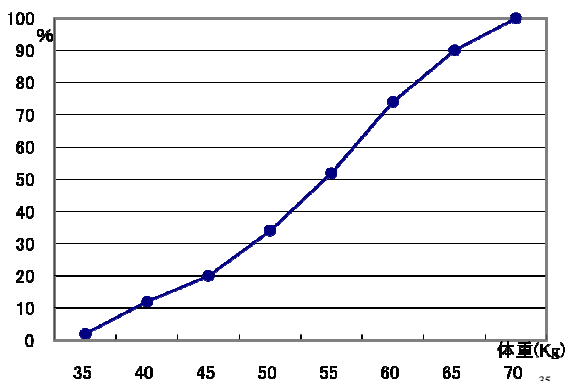
33

折れ線グラフ frequency polygon



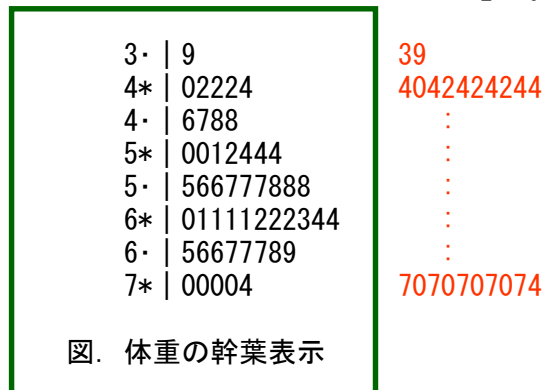
34

累積折れ線グラフ



35

幹葉表示 stem-and-leaf display



36

分布の代表値

● 分布の代表値とは

代表値 : average

→ 分布を代表する値とは何か？

- (1) 分布の真中辺のデータの値
- (2) 最も多いデータの値

→ 分布の「位置の尺度」とも呼ばれる

37

分布の3つの代表値

- (1) 平均値 mean
- (2) 中央値 median
- (3) 最頻値 mode

38

平均値 mean

全データの総和を標本数で割ったもの :

$$\text{平均値} = \frac{\text{データの合計}}{\text{標本数}}$$

記号 : n 個のデータを x_1, x_2, \dots, x_n

$$\text{平均値} \quad \bar{x} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_i$$

39

平均値の例 :

例) 5人の体重のデータ : 50, 45, 60, 70, 55Kg

$$\begin{aligned} \text{平均値} &= \frac{50+45+60+70+55}{5} \\ &= 280 \div 5 = 56 \text{ (Kg)} \end{aligned}$$

40

中央値 median

データを大きさの順に並べた場合、ちょうど真ん中の順位にくるデータのもつ値。
N個のデータ大きさの順に並べる :

$$x_1 \geq x_2 \geq \dots \geq x_n$$

● Nが奇数 : 中央値 $x_{Med} = x_{\left(\frac{n+1}{2}\right)}$

● Nが偶数 : 中央値 $x_{Med} = \frac{x_{(n/2)} + x_{(n/2+1)}}{2}$

41

中央値の例1 :

例) 5人の体重のデータ : 50, 45, 60, 70, 55Kg

(1) まず大きさの順に並べ替える :

→ 45, 50, 55, 60, 70 (Kg)

(2) 標本数5は奇数なので,

$(5+1)/2 = 3$ 番目

のデータが中央値 → 中央値 = 55 (Kg)

42

中央値の例2:

6人の体重のデータ: 50, 45, 65, 60, 70, 55Kg

(1) まず大きさの順に並べ替える:

→ 45, 50, 55, 60, 65, 70 (Kg)

(2) 標本数6は偶数なので, $6/2=3$ 番目
と4番目のデータの平均値が中央値:

→ 中央値 = $(55+60)/2=57.5$ (Kg)

43

最頻値 mode

最も人数(度数)の多いデータのもつ値。
実際には, 標本数が少ない場合, データが連続的なことから, 各データの人数は少なくなり, どのデータが最頻値かを定めるのは困難。



度数分布表の利用

最も度数の多い区間の真中の値(級心)を最頻値とする。

44

その他の位置の尺度

● 最小値 minimum value: データ中最小の値
最大値 maximum value: データ中最大の値

● パーセンタイル percentile (百分位):
大きさの順にデータを並べ, 小さい方から累積して何パーセントの点にあるかを示す。

→ 5, 10, 25, 50, 75, 90, 95パーセンタイル
(第1, 2, 3四分位quartile)

45

分布の散布度

各データは異なった値を持つので, その分布には広がりがある。
そのばらつき具合, 代表値からの平均的な散らばり具合を示す。

- 1) 分散 variance, Var
- 2) 標準偏差 standard deviation, SD
- 3) 変動係数 coefficient of variation, CV
- 4) 範囲 range, R

46

偏差について

代表値とデータとの差, 普通は代表値として平均値を用いる。

偏差 deviation = [データ] - 平均

(例) 身長が180cmの場合, 平均身長が170cm

身長の偏差 = $180 - 170 = 10$ (cm)

47

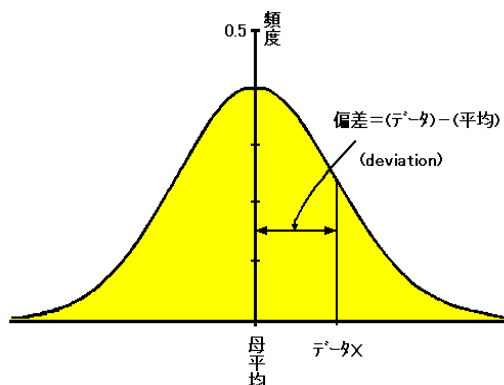


図 偏差の考え方

偏差に基づく散布度

分布の散布度をどのようにして求めればよいか

●偏差の平均値は？

→ 偏差の合計は常に0。使用不可。

(練習問題1:確かめてみよう)

偏差に正負があるので、全て正にすればよい。

→ 偏差の絶対値, 偏差の2乗(平方)

49

平均値からの平均偏差

◎平均値からの偏差の絶対値の平均値:

n 個のデータを x_1, x_2, \dots, x_n

$$\text{平均偏差} = \frac{\text{各ケースの偏差の絶対値の合計}}{\text{標本数}} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n |x_i - x_{Ave}|$$

●統計的な扱いが難しいため、実際には、ほとんど使用されない。

50

分散 variance

◎平均値からの偏差の平均平方和:

n 個のデータを x_1, x_2, \dots, x_n

$$\text{分散 } s^2 = \frac{\text{偏差の2乗の合計}}{\text{標本数}} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2$$

51

分散の例:

◎5人の体重のデータ: 50, 45, 60, 70, 55Kg

平均値=56Kg

$$\begin{aligned} \text{分散} &= [(50-56)^2 + (45-56)^2 + (60-56)^2 \\ &\quad + (70-56)^2 + (55-56)^2] / 5 \\ &= [36 + 121 + 16 + 196 + 1] / 5 \\ &= 370 / 5 \\ &= 74 \text{ (Kg}^2\text{)} \end{aligned}$$

52

標準偏差 standard deviation (SD)

分散は偏差の2乗の合計から計算

→ 単位も2乗: 体重=Kg², 身長=cm², etc

●分散の平方根を計算し、単位を戻す。

$$SD = \sqrt{\text{分散}}$$

53

標準偏差の例:

◎5人の体重のデータ: 50, 45, 60, 70, 55 Kg

平均値=56 (Kg)

分散=74 (Kg²)



$$\text{標準偏差 } S = \sqrt{74} = 8.60 \text{ (Kg)}$$

54

変動係数 CV(Coefficient of Variation)

50人の身長標準偏差は5 cm、体重標準偏差は5 kgであった。

Q. 身長と体重のばらつき具合はどちらが大きいのか、それとも等しいのか？

単位が異なるので比較できない！
単位をそろえる必要がある。

55

変動係数の定義

$$\text{変動係数} = \frac{\text{標準偏差}}{\text{平均値}} \times 100$$

平均値を100としたときの標準偏差の大きさの程度を示す。

56

変動係数の計算例:

◎ 5人の体重のデータ : 50, 45, 60, 70, 55 Kg

平均値 = 56 (Kg)

分散 = 74 (Kg²)

標準偏差 = 8.602 (Kg)

$$\text{変動係数} = \frac{8.602}{56} \times 100 = 15.36$$

57

● 散布度に関するその他の話題

▼ 偏差値とは何か？

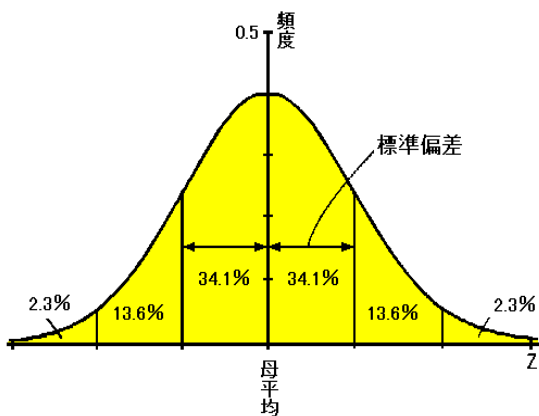
偏差は平均値からの差。

→ データの標準化 standardization

標準化:

データの平均が0、分散が1になるようにデータを変換すること。

58



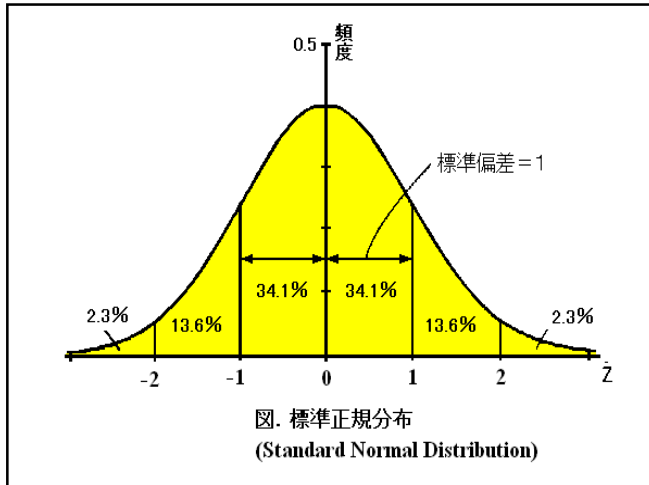
● データの標準化と偏差値

平均が μ (ミュウ)、標準偏差が σ (シグマ)の場合、あるデータ x を、

$$z = \frac{x - \mu}{\sigma} \quad (\text{平均0, 分散1})$$

偏差値 $T = 10 \times z + 50$
平均50, 標準偏差10

60



偏差値の計算例:

統計学の平均値が75点, 標準偏差15点の場合:

A君90点, B君60点の偏差値は?



$$\text{A君の偏差値} = \frac{90-75}{15} \times 10 + 50 = 60$$

$$\text{B君の偏差値} = \frac{60-75}{15} \times 10 + 50 = 40$$

62